



「その銀歯撮らして」って頼むとニヤッと笑って撮らせてくれた警察官

# DON'T WORRY, BE HAPPY.

写真/文 越智 隆治

www.web-lue.com

カリブ海に浮かぶ、小さな島国、英国領タークス&ケイコス諸島は、欧米人から人気のリゾートアイランドとして、プロビデンシャルス島を中心に観光で栄えている。海岸線には、洗練された高級リゾートが立ち並び、リッチな欧米人たちが静かに余暇を堪能している姿が印象的だった。

この国を訪れたのは2回。1度目は、同国のさらに南にあるドミニカ共和国のシルバーバンクにザトウクジラを撮影に訪れた時、その帰路にクルーズ船は同諸島のタークス島に寄港して、僕たちゲストを下船させた。

2度目は、プロビデンシャルス島近海に住み着いているイルカの「JOJO」の撮影のため。JOJOは、群れから離れて単独でビーチにやってきて人との交流を求める不思議な野生イルカ（ハーミットドルフィン）として、この島国の「国宝」に指定されていた。もう8年も前の話だが、その時のJOJOとの出会いは、自分のその後の生き方を決定着ける程のものだった。

この時サウスケイコス島にも足を運んだ。ここには、生前のジャック・マイヨール氏が、第二の故郷としてこの島国に住み着く決心をした住居が、建設途中のまま廃墟となって残っていた。内部には口バの糞が散乱していたのが強烈な印象として残っている。

しかし、ここで伝えたいのはJOJOの話でも、故ジャック・マイヨール氏の話でもない。クジラの撮影で立ち

寄った、1度目の訪問でのタークス島での思い出。一応首都がある同島ではあったが、観光地化されたプロビデンシャルス島と違い、地元住民がコンク貝漁や塩田などで質素に暮らす素朴で可愛らしい印象の島だった。小さな白い建物の多い、箱庭のような静かな町中を散策していると、どこからかレゲエ音楽が聞こえて来た。そのゆる〜い感じに誘われて、音楽の流れている高く白い壁の建物の前までやってきたのだが、どうやらレストランでも、コンサート会場でも無いようだ。たまたま近くを通りかかった現地のおっさんに「ここは何？」と聞くと「It's a Jail. (刑務所だよ)」と言って、にやっと笑った。

笑ったおっさんの前歯は、見事に銀歯。太陽光に反射して強烈なインパクトを放っていたのだが、黒人だからなのか妙に渋く似合っていた。しかも、良く見ると、その銀歯にはミツバとハートの模様がある。あまりに渋かったので（こいつももしかして、犯罪者なのかな）なんて思いながらも、頼んで写真を撮らせてもらった。しかし、話を聞くと犯罪者どころか、彼は警察官だという。

今となってはその時流れていたレゲエが「Don't Worry, Be~ Happy~」と歌っていたかどうかは定かではないのだが、そのシーンを思い出すたび、何かか頭の中ではこの音楽がBGMに流れる。そのおっさん、否違った、警察官の雰囲気や、彼が刑務所だと教えてくれた、白くて綺麗な壁の内側からゆる〜く流れてくるレゲエの音楽は、当時僕が持っていた善悪の価値感を崩壊させた。あの壁の向こう側はとてつもなく幸せな場所のような気がして、中に入りた衝動にかられたのだ。

「それくらいの事で」と笑われるかもしれないが、確かに今よりも相当感受性が豊かだったのは間違いない。以降、現在に至るまで、僕の生き方には、常にこの言葉と音楽が根幹にある。タイ語の「マイペンライ」や、スワヒリ語の「ハクナマタタ」なんて言葉も、聞いただけで、なんだかとっても幸せになれるのである。



タークス&ケイコスの国宝、イルカのJOJO

People  
Photo Column by the Sea 02